

東埼玉道路大落古利根川側道橋下部その1工事 関口工業（株） 富田 健太 （とみた けんた）



自然相手にゼロから

大学で造園学を学び、自然を相手にゼロからの作りをすることに興味をもち、入社して2年。

荒川の築堤工事や、得意の造園知識を最大限生かした「ビオトープの自然再生」工事を経験し、現在は一級河川大落古利根川をわたる橋梁下部工事に携わっている。ここも河川の中で、自然との関わりが強い現場である。

この現場では、詳細な施工図を作成するための測量をし、その結果を基に数々の設計を行うなど重要な仕事を任されている。



信頼される技術者を目指して

これまでの現場では、工事に入る前は「けもの道」のような道路が、自分たちの施工後、「きれいな舗装道路」になったときに喜びを感じたそうだ。

一方で、協力会社の人たちとのコミュニケーション不足により手違いが生じ、手直し工事が発生したなどの失敗も経験している。

この経験を基に「早く、正確で、丁寧な仕事」をモットーに、「社内はもとより他社からも模範となり信頼のおける技術者」になりたいと抱負を語る。



充実した休日が、平日頑張れる力に

平日は、職場近くの料理屋さん巡りをし、休日は、キャンプにドライブ、学生時代から続いているテニスに汗を流すなど自身を「アウトドア派」と自称する。

また、大のヤクルトファンで、シーズン後半のヤクルトの大進撃に、神宮球場に多く足を運んだ。



自分の成長が直に感じられる

これからも経験を積み、土木施工管理技士、造園施工技士などの資格を取得したいそうで、積極的な態度に「まじめすぎるほど実直で素直。準備不足など多々あるが、指摘されたことは真摯に受け止める姿勢が良く、成長過程がはっきり見られるところに喜びを感じる」と現場の野口所長は言う。

建設業は「働き方改革が必要」、「きつく人手不足」などマイナスイメージがあり、最初は経験が無いので大変と感じるところもあるが、その辛い経験を乗り越えたところに自分の成長を感じることができる。

また、受け取った1枚の図面から、「地図に載る構造物」ができ、それが社会で多くの人に使われる所、これが「建設業の魅力」と熱く語った。



富田健太さんのプロフィール

出身地	兵庫県西宮市生まれ、東京都杉並区育ち
現在の住まい	埼玉県志木市
年齢	24歳
家族	父、母、妹
趣味	キャンプ、野球観戦、ドライブ、テニス